

# やすらぎ



## 「歎異抄」(第五十回)

樫 暁 講述

### 「歎異抄」 後序 続き

聖人のつねのおおせには、「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり。されば、そくばくの業をもちける身にてありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなさよ」  
(真宗聖典六十四頁)

「聖人のつねのおおせ」とは、公式の場ではなく、一人で居られた時も仰せられていた。唯円大徳がそれを聞かせて頂いていた。そのお言葉を親鸞聖人が亡くなられた後に思い出されて考えられた事。

「弥陀」とは、阿弥陀如来の略称。日本人は略称してしまう悪い癖がある。阿弥陀の阿の字、無量寿、無量光、阿の字が無くなってしまったら

意味が失ってしまうのだが、お構いなしに弥陀という、日本人の悪い癖を問い尽くした事。五劫とは、インド人の時間の表現、平たくいえば、単に考えて本願をおこされたものではなく、深いこの仏の御智慧を持って、菩薩の位に下がってお考えになったその事を五劫。その思索によって本願をおこされたという事。それを五劫思惟の本願というわけだ。

「ひとえに」とは全くという言葉に置き換えられます。全くこれは、わたくし親鸞一人がためであります。親鸞聖人は自分のことを仰せられる場合に実名を仰る場合は、大事なところであるという事が云われている。

「歎異抄」を読んでいくと第五章、第六章の様に実名を挙げて仰る箇所がある、こういう所を大事に考えて読まなければならぬといわれる先

**光照寺寺報**  
 発行所  
 真宗大谷派 弘興山  
 宗教法人光照寺  
 〒331-0821  
 さいたま市北区別所町102-2  
 電話：048-651-2781(代)  
 FAX：048-651-2753  
 E-mail  
 yasuragi@beige.ocn.ne.jp  
 ホームページ  
 http://koshoji76.jp  
 発行人 池田孝郎

輩方が沢山居られる。この箇所は全く親鸞一人がためであり、本願は十方衆生あるいは国中人天と呼びかけられている。今の言葉でいうと人類全体、過去現在未来、三世の全ての人々を十方衆生。全ての人よと呼びかけられた本願を親鸞一人がためなりと頂かれた、そこに信心の主体性がある。漠然とわかった訳ではなく、わたくし一人の事でございます。と受け止める、こういう事です。

そくばくの業とは我々自分で自覚はしないけれども、多くの業を身の中に備えている、業因というものを。それが縁によって業果となつてあらわれる。だから因縁果。業因、業縁、業果。因だけが外にあらわれていないからわからない、だからきつかけがあると腹を立てたり、暴力したり、嘘を云つたりする。そういうのが縁次第で出てくるのが我が身である。

他宗教でもたすけると出てくるが親鸞聖人の云われる、たすけるとは何か、ここが問題、救済という事です。真宗においての救済は他力の自覚、仏の力によって自覚者として頂くというところが救済。

宗教はこころの問題だといわれるが、身の問題だといわれたのが親鸞聖人。我が身ということ、自身とはどういうことなのか、多くの業を皆持っている、それが縁次第でいつでも出てくる、それで罪を作る、そういう私だという事、しかし自覚が出来にくい、私はちゃんと知性を持っている、自分で制御していると思つている。いかに知性的な生活をして、教育を受けても、人間のこころの中には動物本能的なものがある。いざとなつたら戦争も起こる、こういう事です。



春彼岸法要の様子

五箇盆会法要 八月十一日(土) 午前・午後 厳修  
 子供会報告 詳細は3頁  
 詳細は3頁



この度は、自分が人間として生まれてきた意味を、問い尋ねてみましょう。子供が言葉を覚え、自分を意識し始めると、「自分はどこから生まれてきたの」と母親に問うことです。西洋では「鶴が運んできてくださったのよ」と云う。日本では「お母さんの腹から生まれてきたのよ」と云う。

子供の頃より私は「この世に何をしにきたのか」という問いを持ち、二十歳になり、成人式より帰り、一人机に向かって、二十歳の記念にこの問いを考えてみようと思いい立ち、新しい大学ノートに記してみようと

書き始め、すぐ出た言葉は『子孫を残すこと』であった。それでは動物と同じではないかと自問し、「では人間としては：：」と問うと書けなくなってしまう。そこで、この問いを持ってこれからの人生を歩んでいこうと心に決め苦悩が始まった。ゲーテの「わかきウエルテルの悩み」を読み、いろいろな人生論を読み、特に影響を受けたのは亀井勝一郎の人生論であった。その中の一句として、「迷っていく力がある。」であった。それから、吉川英治の言葉「我以外は皆、師なり。」であった。後で知ったことでありますが、亀井勝一郎も、吉川英治も親鸞聖人の信奉者であったことは、偶然なのか、必然であったのか不思議な思いです。

浄土真宗に來及くも出遇い、本願の教えに学ぶと、人類の根元的問いであり、究極の救いであったことに頷くことであります。

『あたかも牢獄を逃れるごとく、人はみな自己の前を逃れんとすれども、世に一つの大きな奇跡あり、我は感ず「いのちみな生きらるべし」と。』(リルケ・信国淳訳。このリルケの詩の感得こそ、「遇斯光」この光に遇うにあり、弥陀の智慧の光に遇うた親鸞聖人の回心の体験と相應するものです。弥陀如来の本願は、一人も漏らさず救うと誓われる、如来の大慈悲心であります。これこそ世の光であり、人類の闇を救う光であります。

『三層依文』の冒頭の言葉として、「人身受け難し、いますでに受く。」であり、「この身今生において度せずんば、さらにいづれの生においてかこの身を度せん。」であります。人皆苦悩の衆生であります。「生・老・病・死」の四苦を超えるお覚りをお釈迦様が悟られ、本願の教えを末法の世の光として、今現在説法されておられることです。

東本願寺「真宗会館」の「サンガ」の機関誌五月号に、名越康文さんの記事が掲載されておりまして、「どうせ死ぬのに、なぜ生きるのか」の問いに感銘致しました。人は生まれて来た問いと、死して行く問いに、自身が応えられなければ生きること、死ぬことも出来ない存在であることです。

人は曠却來、流転し、今生に人として受けたいのちを成就する道として、善導大師の「千金の喩え」があります。人は九百九拾九金を既に積み、あと一金の念仏申す功德を今生に積むことに於て、いのちを成就し、仏となると示しておられます。誓願一仏乘に感謝し、懺悔し念仏す。

南無阿弥陀仏

### 鈴の音

自分を悩ませている問題  
しか、自分を立ち上げら  
せる御縁はない

坂東性純  
（道を求めるということより）

### 真の依り処

大宮市内から車で三〇分位の所に木々の間を吹き抜ける風、キラキラ光る木の葉の陰をぬって杜の中にカフエがあります。朝は、キジの夫婦がごあいさつに來、野鳥の声がしてまるで山里に居るようで疲れを忘れさせてくれます。師からこの世にはどこにも真実がないことを教えて頂いておりながら、不条理な事について愚痴が出てしまふ、やっかいな煩惱にふりまわされて迷いを生きています。私、このところふつふつと感じさせられるものがあります。歎異抄第四条に慈悲に聖道・浄土のかわりめあり。とありますが、私はそのかわりめとはどんなものなのかと思いついてきました。ここでやっとならぬ。少しだけ様になつて来たようです。弥陀に救われなければ生きられないこの身が飲んでいます。

岡ノリ子



### 盂蘭盆会法要

- 8月12日(土)
  - 第一部(午前) 9時30分受付  
午前 10時~11時30分まで
  - 第二部(午後) 1時受付  
午後 1時30分~3時30分まで
- 光照寺本堂にて
- 勤行・法話

※準備の都合上、出席人数と午前か午後の参詣をご連絡下さい。預骨、初盆の方は率先してお参り下さい。また、どなたでもお参りできます。真宗のお盆に触れて下さい。ご参詣をお待ちしています。

### お盆参り

- 7月13日から16日の期間
- 8月1日から16日の期間(12日は除く)

※ご希望の日にちをお知らせ下さい。時間につきましては、こちらで調整してご連絡させていただきます。ご自宅か当寺のいずれかで読経いたします。

現役をリタイヤした人が口にするセリフは「教育と教養」が大事と云われるというのを、折りに触れて耳にすることがあります。発音だけ聞くと右記の字を想像しますが、実際は、「今日、行くところがある、と、今日、用があること」が大事だと実感を持って話すそうです。NHKラジオで「さわやかに目覚めて今日も用はなし」という川柳を聞き、前述の「今日行く、と、今日用」の話をしていました。如何に人は用(やることがある)があるということ

が大事であるということを考えさせられました。これはリタイヤした人や高齢者の方々の問題だけではなく、老若男女誰もが抱え持つ、実存の問題として大切なことだと感じています。どこへ行くのか、本当に大事な用なのかはよく吟味する必要があると思いますが、奥底には、本当にいのちが成就する世界に出遇うことを望んでいると云っても過言ではないと思います。誰もが空しくない人生を送りたいと叫び、その叫びに本願は撰取不捨(おさめとつてすてたまわず)と呼びかけて下さっています。亡き人を偲び、ご一緒にお念仏申しましょう。お盆法要は二部制にて厳修致します。多数のご参詣をお待ちしております。

(副住職 釈 徹照)

### 子供会報告

子供会「ポニークラブ」  
花まつり&遠足(鉄道博物館)

坊守 池田 邦子

四月三日(月)桜花爛漫、大人十二名小人十一名の参加を得て、陽子さん導師の勤行後、直ちに鉄道博物館へ移動、数年前に孫と見学した事を思い出された。お弁当を食べた後、ボランティアさん二人と参加者二手に分かれ館内を回った。パネルを見ながらボランティアの方の説明と、曾ての国鉄に勤められていた平山さんの狭軌から広軌への線路の変遷の解説ありと、有意義な時間を過ごせた。寺に

戻り花まつりの冊子を皆で読み合  
い、花御堂に甘茶をかけて釈迦の  
誕生と私達の命の尊さを喜び合  
いました。



甘茶かけ



鉄道博物館にて



本堂にて

### ひとち 歎異抄

羅漢：曠劫来流転の身は助かるか。

「信心のさだまるときに、ひとたび撰取してすてたまわざれば、六道に輪回すべからず。」第15章



「弥陀の本願を信じ 念仏申すところに、弥陀の心光撰護して、ながく生死を離れて行く道が与えられる。」

川越喜多院の五百羅漢



寺務所より

◆法要のご案内

●孟蘭盆会法要 八月十二日(土)、午前・午後二部厳修。

●秋季彼岸会法要 九月二十三日(土)午後一時三十分より厳修。

●報恩講 十月八日(日)講師は田代俊孝先生(同朋大学大学院教授、行順寺住職)、午前十一時より厳修。

◆光照寺護持会総会

六月十日(土)午前十時より開催。講師は佐々木玄吾先生(いずみ会館館主)。アトラクションもあります。

◆光照寺旅行

十一月十二日(日)日帰り旅行、神奈川県鎌倉・小田原方面を旅行します。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会

講師は延塚知道先生(大谷大学特別任用教授)七月二十四日、九月十一日、十一月二十七日、午後一時半〜四時半。『教行信証』を学んでいきます。

●大経の会

七月九日、九月十日、十月十四日、午前十時〜午後三時まで。講師は佐々木師と任職の担当月別。細川巖著『正信偈讃仰』(六)を学んでいます。お弁当持参して下さい。

●我聞の会

六月二十六日、七月二十日、九月十五日、十月三十日、午後二時〜四時まで。講師は住職。「真宗の簡要」(住職著)。

●微風学舎

六月六日、七月二十七日、九月二十七日、十月二十四日。午後七時〜九時まで。講師は副住職。「顕浄土」の教学―親鸞における現生不退の視座―サブテキスト「今日のことば」―「真宗の生活」を学んでいます。●さいたま親鸞講座

午後二時〜四時まで。会場は大宮川鍋ビル。八月五日、九月九日、講師は四衛亮氏。

◆お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。宜しくお願ひします。住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。

俳句・川柳



吉澤 光照

野立傘一点朱く夏立ちぬ  
若鮎や歯形鋭く川藻食む  
すり抜ける風薄暑なりコンコース  
みまかりし母へ一声ほととぎす

臚てふ 江部鴨村「俳号」

花筏小事大事は既になく  
子と並び童顔となり土筆つむ  
上り鮎掌を合せ焼く越後人  
花神去る志功の女神棲む国へ

臚てふ凡夫無明の道明り  
子を叱り白くなりゆく菜種梅雨  
防人の丈夫を慕ふ桜貝  
逃水や振向きさまに人老ゆる

山田 恒

AIへ傘寿の窓を開けて待つ  
トランプのウインウインに見える陰

短歌(詩)



佐藤 セツ子

逝きし子によく似た孫の来訪を  
待ち居て嬉し笑顔でより来  
車中より富士見通りと名付けたる  
子等 有りし日の想い出浮かぶ

佐々木 玄吾

義父逝きて五十回忌の法要に  
妻と二人で久留米に行きぬ  
妻の里久留米よいとこ子や孫も  
みんなそろって法話を聞きぬ

佐々木 文字

聖人の直筆になる唯信鈔  
妙安寺様 熱心に説かるる  
鳥好む豌豆の芽を保護せんと  
我網を張る念仏しつと

赤秀 品枝

聞き馴れぬ言葉ゆき交う人ざかり  
花ざかりなり新宿御苑は  
連れそつていく年なるかわが夫は  
出かける度に無事を祈つて



人参と蕪  
山田 邦興 画

梵鐘

私は四十才の頃、妻と二人の娘と四人で十二坪半の家を建て、日野で暮っていた。娘二人は小学校の高学年であった。その頃、細川先生からおはがきを頂いた。「君の家庭の成就が何事よりも大事である」と書いてあった。その言葉は私にとって忘れられない言葉であった。その時から四十数年たった。今は家内と二人暮しである。朝・晩二人で勤行している。正信偈や讃仏偈をあげて、わかり易い法語を頂いている。子どもや孫たちが来ると一緒に仏壇にお参りして勤行している。これが現在の私における家庭の成就である。

(玄)